

08/20 東京ピースウィングロータリーEクラブ 四之宮君
 08/22 高松RC 蔭久君、石濱君、岡澤君

08/22 eCLUB ONE 橋本君
 08/23 さぬきRC 片松君、尾崎勝君

例会変更のご案内

月日	曜	クラブ名	例会場	→	月日	曜	場所	時間
09/12	木	高松RC	リーガホテルゼスト高松	→	09/12	木	JRホテルクレメント高松	12:30
09/17	火	当クラブ	リーガホテルゼスト高松	→	09/17	火	定款第7条により休会	
09/18	水	坂出東RC	坂出グランドホテル	→	09/18	水	四国電力(株)火力本部坂出發電所	12:30
09/19	木	高松RC	リーガホテルゼスト高松	→	09/19	木	鮎滝カントリークラブ	18:30

ニコニコBOX 創立第2651回例会 12件 計 28,000円 累計 420,000円

国領さんにお世話になりました。(山村君)
 米田さん、西山さん、友國さんにお世話になりました。(石橋君)
 松岡さん、客話ありがとうございました。(山村君)
 松岡様、客話ありがとうございました。(浜君、国領君、市原君)
 JR四国さんにお世話になりました。(浜君)

友國さん、石橋さんにお世話になりました。(西山君)
 観光列車を楽しんでください。(四之宮君)
 野球では皆さんにとってもお世話になりました。ありがとうございました。(西村君)
 早退お詫び。(野村君、大西君)

客話「JR 四国・台湾鐵路 観光列車事情」

JR四国と台湾鐵路は、2013年に松山市の「松山駅」と台北市の「松山駅」との間に友好駅協定を結んだことをきっかけに様々な交流を行っている。JR四国の本格的な観光列車「伊予灘ものがたり」がデビュー10周年を迎えたが、台湾国内でもコロナ期に国内旅行が見直されて観光列車が脚光を浴びる事となっており、JR四国と台湾の観光列車デザイナー対談、観光列車の姉妹列車協定の事例も盛り込みながら、両鉄道会社の観光列車を紹介する。

【JR四国の観光列車】

JR四国の観光列車は国鉄車両をリノベーションしたもので、食事込みで1万円弱の料金。昨年は、三つのものがたり列車で定期便5万人、貸切5千人のご利用があった。JR四国にはクルーズトレインと呼べるものはないが、この三列車を乗り継いで四国一周をするツアーが人気となっている。台湾の団体向けにも月2回のペースで3列車乗り継ぎの貸切運行を行っている。

■伊予灘ものがたり(初代 2014～2021)

愛媛県を走る観光列車で、沿線の明治から昭和期のレトロモダンな観光地とマッチングするコンセプトで設計をした。和と洋が交じり合うデザインで懐かしさを演出しつつ、屋外に拓けた開放的な和室空間をイメージした。運行開始後、期せずして沿線から多くの手ふりなどのおもてなしを受ける事となり、仕切りなどのバリアのない作りがお互いの喜びを共有し、お客様が人の温かさに感動する列車となった。以後のものがたり列車も椅子や壁で視線を遮ることがない作りとしている。

■四国まんなか千年ものがたり(2017～)

香川県多度津駅と徳島県大歩危駅を結ぶ観光列車。奥祖谷地方の古民家群をモチーフに、より「和」のイメージを強くしている。

■志国時代(トキ)の夜明けのものがたり(2020～)

高知県を走る観光列車。坂本龍馬・幕末維新をテーマに黒船(クロフネ)を引用しつつ、高知県民の新しいことに挑戦する気質に鑑みたデザインで、宇宙船をモチーフとしたSFファンタジックな車両「ソラフネ」を組み合わせた。

■伊予灘ものがたり(2代目 2022～)

初代が普通列車改造の車両だったものを特急型車両改造に更新すると共に2両編成を3両化し、新たに個室サービスをはじめた。壁に仕切られない開放的な空間づくりのコンセプトを崩さない為に、先頭車両の半分を贅沢に個室化した。

【台湾鉄路の観光列車】

今年1月の民営化を受け、更に観光列車に力を入れる姿勢が見受けられる。車両の財産は台湾鉄路となっているが、プロデュースや販売は大手旅行会社ライオントラベルが請け負って運営されている。

■鳴日號(The Future 2020～)

デザイナーのジョニー氏は、台湾鉄路の今までの観光列車デザインが台湾を代表する列車として相応しくないと訴え、この列車のデザインを任されることになった。台湾国内をチャーター運行できる列車で、日本のグリーン車のようなゆったり座席の列車と、食事を愉しむダイニングカーの列車が、一編成ずつ運用されている。デザイナー対談で語られたコンセプトやモチーフは、JR四国の列車との共通点も多く、両者それぞれの生まれ育った豊かな地元(四国と台湾)の風土を開放的な列車で巡って観て欲しいとの思いがデザインの根底にあり、お互いの観光列車のデザインがシンクロしている事は驚きであった。

■藍皮解憂號(2021～) & 藍よしのがわトロッコ(2021～)

台湾東南部の枋寮駅と台東駅間を走る観光列車で、エメラルドに輝く太平洋の海岸線を愉しめる。1970年代ごろに運行されていた古い客車をそのまま走らせてレトロ感を演出するとともに、台湾の人にとって懐かしい思い出が湧いてくる列車となっている。冷房もなく、昔ながらの扇風機の送風と、窓を開放した海風とがすがすがしい列車である。徳島を走る、同じく冷房のない「藍よしのがわトロッコ」と4月に姉妹列車協定を結び、お互いの列車の知名度向上を図っている。協定後、月1回の台湾団体の貸切列車を運行している。

四国には知名度の高い観光地が少ないが、地域の方々の心からのおもてなしは、第一級の観光資源だと感じている。この四国の方の温かさを世界中の方に体験してもらうべく、観光列車のPRにより一層努めたいと思う。



四国旅客鉄道株式会社
鉄道事業本部 営業部
ものがたり列車推進室長 松岡 哲也 様